



第114回 マッセ・セミナー

元漫才師公務員と考える “自治体職員がワクワクする働き方”

登壇者：尼崎市こども青少年部こども青少年課 江上 昇 氏

日 時：令和3年10月26日(木) 14：00～16：45

場 所：マッセOSAKA5階 大ホール



第114回 マッセ・セミナー

元漫才師公務員と考える
“自治体職員がワクワクする働き方”

講師：江上 昇 氏（尼崎市子ども青少年部子ども青少年課）

日時：令和3年10月26日(木) 14:00～16:45

会場：マッセOSAKA 5階 大ホール

(江上) 江上です、どうぞよろしくお願ひします。「江上先生」と呼ばれても変な感じがします。同じ公務員ですので、気楽に聞いていただきたいです。ちょっと不思議なのですが、このセミナーになぜ参加しようと思ったのですか。

(フロア) ワクワクしたいなと思って。

(江上) ああ、ワクワクしたいから。ありがとうございます。私は元漫才師で公務員をやっていて、色々なことをやっているのだから、今日はそんな話をして、皆さんに「ああ、そんなことができるのか」と思ってもらえればと思っています。今日は堅い話は全くしないつもりなのですが、何か空気がビキーンとしていませんか。大丈夫ですか。僕は、まじめな話ができないので、よろしくお願ひします。

私は今、尼崎市役所で係長をしています、28歳までは漫才師をしていました。そこから尼崎市役所に入って15年が経ちました。15年前は金髪に赤い眼鏡をかけて、売りたいオーラが前面に出まくっている感じでしたが、売れることなく28歳で引退しました。今はそれぐらいの年齢でも辞めない人が多いのですが、昔は30歳までに売れなかったら「ちょっとやばいぞ」みたいな感じでした。調子のいいときは、パンクブーブーやどきどきキャンプと並んで雑誌に載ったり、小さい賞を取ったりもしていました。

解散して公務員になったおかげで、今は普通の家庭を築いています。私が43歳、妻が38歳、長女、次女、長男がおりますが、家庭とはなかなか難しいもので、私の家での地位は5位です。大体そうですね。妻が圧倒的に君臨してしまっていて、その次に長女10歳、次女7歳、3歳の長男も、「パン持ってこい」「ジュース」「次、アイス出してこい」と言っていて、僕よりも偉いです。

最近この順位に変動がありました。子どもが産まれたのではなく、ルンバを買ったのです。こいつはよく働いて、朝スイッチを押していくと、家中ピカピカにしてくれ

ます。それで、家での序列はルンバが5位、私が6位になったというわけです。ここは笑うところですよ。

元漫才師の経歴を生かして、色々なところで色々な話をしています。実は、尼崎市役所にはもう一人元漫才師がいるのです。私は元松竹芸能ですが、もう一人は元よしもとクリエイティブ・エージェンシーで、尼崎市の採用基準はどうなっているのかという話ですが、二人でお堅い行政情報を漫才で発信する「お笑い行政講座」という活動をしています。2016年3月から始めて、5年ぐらい経ちました。新型コロナウイルスの影響でかなり休んでいますが、これまでに約140回開催し、一番多い年は50回ほどやりました。1万人以上に聞いてもらっています。

僕たちのホームグラウンドは、NGKではなく町会の総会です。自治会が年末か年度末に決算をするときに、まず町会の予算と決算の承認をやって、新しい幹事を決めて、最後に僕たちの漫才で締めるという、どんなプログラムやということですが、そんなことをやったりしています。あとは今日のような研修に呼んでもらったり、市の主催事業の司会をしたりしています。よその課の仕事で呼ばれて行って超過勤務手当が発生するなど、変わった芸人です。尼崎市内の小学校でもやっていますが、結構ガヤがすごくて、「市役所ってこんなお仕事ですよ」みたいな漫才をすると、「それ違うで」「間違ってる」と600人が言うので、話が全然前に進まないこともあります。

最近は、年に1回ある中学校へ行っています。ここの社会科の先生が友達で、年1回呼んでくれるのです。この中学校の生徒は賢いし、将来、大企業に入ったりするのですが、「就職してから、思ったほど出世しないやつが多い。どうもコミュニケーション能力に問題があるみたいだから、1コマ授業をやって、コミュニケーション能力を改善してくれ」と言われて、「いやいや、日本の将来を担っている人を50分で僕が変えるんですか」みたいな話ですが、気に入ってくれて、毎年おもしろおかしくやっています。

お笑い講座をどのようにやっているか、少しだけ紹介します。今日は研修なので普通の話を60分しますが、町などに呼ばれたときにはお笑いの話しかしません。お笑いで行政に伝えるのです。「ツッコミ編」として、世の中には面白いことがたくさんあるけれど、それは気付いて指摘して初めて面白くなるのです。だから、色々なものをよく観察してください。

例えばこんなニュース映像です（バイクがドミノ倒しになっている映像）。ツッコミどころを探してみてください。さあ、どうでしょう。分かっている人もいるかな。これはどこのバイクですか。

(フロア) ドミノピザ。

(江上) そうですね。ということは、この写真を見てツッコミの一言は？

(フロア) ドミノ倒し。

(江上) 正解。「分かっていたぞ」みたいな顔をしている人がいますね。

もう1枚いきましょ。何年か前の新聞に、こんなのが載っていました(将棋棋士の加藤一二九段に関する記事)。おかしいところがあるでしょう。笑っている人は分かっている人ですね。どこがおかしいのです。この新聞を読んで、「ああ、加藤さんも、もう引退か」とかでは駄目です。そうではなくて、この新聞記事にはツッコミどころがあるのです。記事のタイトルを読んでください。もし加藤九段の下の名前を知らなかったとしたら何と読みますか。

(フロア) 1239段。

(江上) そうですね。「加藤1239段! どこまで登りつめたんや!」ということです。一二三(ひふみ)と知っていたらそうですけれど、知らない人からしたら、そう読めてしまう。今、答えを言う前に分かっていた人? 半分ぐらいですね。大阪なのに駄目ですよ。

このように、日常を違う角度から見て面白さを見つけていくのです。

こんな感じでツッコミ編、ボケ編、リアクション編と色々あって、2時間ぐらいやっていたのですが、ツッコミというのは今のように面白いものを見つけるだけではなくて、変わったところや相手の変化をよく観察して、それを言ってあげる、相手に対するコミュニケーションなのです。そういうもっともらしいことを言って講座をしたりしています。

他にも漫才などもしているのですが、一つ面白いイベントを紹介します。「ミーツ・ザ・福祉」といって、毎年やっています。お笑い行政講座をやり始めて2年ほどたって、知り合いから、「福祉イベントで聴覚障がいの方と漫才しませんか」と言われて、「それは面白いね、やろう!」ということでやりました。補聴器がないとほとんど聞こえない聴覚障がいの方と僕、それから手話通訳がずっと僕のセリフを手話してくれています。聴覚障がいの方は、手話で漫才をします。僕はそれを全部言葉にしながら、僕もちょいちょい手話をしながら漫才をやります。右の人は全部を手話します。そうすると、普段と逆のことが起こるのです。聴覚障がいの方が手話でばけると、手話が分かる人だけ、わっと笑う。その後、僕が言葉でそれを言うと、聞こえる人がわっと笑う。そういう普段の逆の関係性になるのが面白いのです。先ほど言ったもう一人の元漫才師は、車いすの女性と漫才したりもしていました。

3日目になると「僕も(私も)漫才したい」という人が増えてきて、20人ぐらいになりました。さすがに20本漫才はできないので、「新喜劇」という形で50分ぐらいがつつりお芝居をしています。例えば視覚障がいで目が全く見えない方がいて、いつもカップル役で、彼女役の人と二人で歩いてもらっています。あるいは、車いすの方

が市民課の課長という設定で、市役所に来た住民とのドタバタ劇というような喜劇をやっています。市長にも出てもらったりしています。

どんなボケをしているか気になりますよね。ちょっとだけ紹介しますから、ちゃんと笑ってくださいね。車いすの人との新喜劇のワンシーンです。「この前病院の受付で、言われたんですよ」「なんですか」「順番にお呼びしますので、おかけになってお待ちください。いや、こっちは最初っから座っとるねん!」「そういう言い回しやから」。本番はウケています。

視覚障がいの人とのネタです。「私、目が見えないんですよ」「そうですね」「でも、目が見えなくても声でイケメンかどうか大体分かるんです」「ほんまですか。私、どうですか」「うーん、残念な感じです」「残念で何やねん!」。これもちゃんと本番ではウケています。

何が言いたいかという、障がいを正面から捉えて、それをネタにしているのです。全然障がいと関係のないボケとツッコミではなくて、それをに入れてやる。障がいというテーマは、その人が生きやすい、過ごしやすい世界をつくるというのがありますが、障がいはただの個性の一つ。背が低い、高い、太っている、髪の毛が多い、少ない、それぐらいの話だというふうにできたらいいなと思っていて、そこを避けずに正面からいじっている。そういうところをいじると、ちょっとビックリする人もいますが、そういうのもだんだん慣れていってもらって、自然にナチュラルな一つの個性になったらいいなと思ってやっています。

メディア側での発信も力を入れていて、「ミーツ・ザ・福祉」は、広報課と協力して毎年100社以上にプレスしていますし、「ミーツ・ザ・福祉」以外にも、色々なことをやって、色々なことをプレスしています。空振りのときもありますが、ちょいちょい新聞に載ったりしています。なぜそんなに一生懸命広報するのかというと、別に目立ちたいというわけではなく、色々な人を巻き込んでいきたいのです。新聞に載ったりして色々な人に知ってもらくと、どんどん巻き込めるようになってきます。

例えば、大阪経済大学と一緒に、公務員志望の学生と現役公務員が対話する、「公務員と語る」というイベントもやっていて、今年で5年目になります。これは150人くらい参加者が集まりました。また、「夜カツ」という団体の運営もしています。これは僕たちの自主活動グループで、ちょっと時代を感じる名前ですが、朝カツが流行ったときに作った自主研です。主催は、尼崎市職員の夜カツというグループで、大阪経済大学と尼崎市が共催で、自主研修グループの方が偉いという、ちょっと変な構造になっています。こういう企画を打てるようになったのは、色々な実績を積み重ねてきたからです。我々が主催になって、大学が共催してくれるし、市も元々関係のある課長さんなどが共催してくれています。

150人呼べるようになるまで、色々なことをやってきました。例えば自主研です。自主研というのは色々な自治体にあると思うのですが、職員が時間外に自分たちで勉強会を運営するというものです。僕らの第1回のときは、80人ほど集まりました。そ

れから、空家をリノベして居場所をつくる活動であったり、NPOもいくつか入っていますが、そのうちの一つ「ファザーリング・ジャパン関西」という、父親であることを楽しもうみたいなグループに入っています。この写真、ちょっと変わったところがあるのですが、わかりますか。ここには、お母さんが一人も写っていないのです。全員、お父さんと子どもです。これは母の日に、お父さんと子どもが金平糖工場に行つて、金平糖を作つて一日遊ぼうというイベントなのですが、お母さんに、母親であることを休む日をプレゼントしようという企画なのです。父親が子どもを連れて遊びに来て、最後、金平糖をおみやげに持って帰ります。

それから、ビブリオバトルはご存じですか。面白いと思った本を持って集まって、5分で紹介する。一番読みたくなつた本が優勝というシンプルなバトルなのですが、これはすごく盛り上がりますよ。また、最近はやっているファシリテーションの勉強会「ファシリ部」もつくりました。これは本になって、私も2ページだけ原稿を書きました。

面白おかしく活動を続けてきて、尼崎市内の自主研修グループが幾つもできました。私が最初に夜カツを立ち上げたときにはそれだけだったのですが、そのうち、それを経験した人たちが自分たちの自主研をつくろうとなつて、5つ、6つと増えていったのです。この自主研の人たちを集めた交流会も行いました。このときのメインイベントが「自主研ドラフト」です。よその自主研の人をドラフト指名して、自分のグループに入れられるというものです。各団体の人に指名したい人の名前を書いて出させて順番に発表します。ここでは、他の自主研の人に自分の自主研に入ってもらふよう交渉するわけですが、別に元々やっていた自主研をやめる必要はありません。他でやっていた自主研も混ぜ込んで一緒にやっていく。兼業というか、色々な自主研に複数所属する人を増やしていくみたいな仕掛けでやっていました。2～3回やりましたが、今は新型コロナウイルスの影響で止まっています。

地域のフリーペーパー「南部再生」の編集もやりました。

ソーシャルドリンクスというソーシャルビジネスの勉強会を10年ほどやっています。うちの市長はNPO出身なので、ソーシャル業界と色々つながっていたいし、参考にしていきたいということで、今でも定期的に勉強会をやっています。その運営を、仕事を離れたところでやっている感じです。

それから、最近では、ナッジ・ユニットという行動経済学を活用した行政手法を実践するグループを運営しています。これは後で説明します。

そんな活動を2012年から10年ほどやっています。最初は普通に自主研をつくつてやっていて、9年で50回ほどやりました。話を聞きたいなと思った人を呼んで、トークセッションをするというもので、私のあこがれだった『アメトーク!』と同じ作り方をしています。綿密に取材をして、事前に話を聞いておいて、本番でぱつと出して、「この話をしてください」と振るのです。だからゲストがしゃべる内容は事前に知っていて、それを振ってしゃべらせるので、僕からすると本番はあまり面白くない

のですが、お客さんは凝縮した話を聞ける、そんなイベントをやっていました。

過去の開催内容としては、例えば「超徴税入門」です。税金を滞納した人の督促や徴収のスペシャリストのチームがあるのですが、その徴税の担当の人たちを集めて話を聞きました。また、尼崎は阪神・淡路大震災の被災地でもあり、東日本大震災でも職員を派遣したりして、両方の震災を経験しているので、CROSSROADというワークショップを防災担当の人たちと一般職員と一緒にやりました。平成26年には、校長先生を二人連れてきて、校長先生あるあるを言うとか、校長先生に普段の苦しいことや楽しい話を聞くというのをやりました。一人は600人ほど生徒のいる小学校の校長なのですが、600人の顔と名前を全部覚えていて、毎朝名前を呼んで声をかけているそうです。校長先生は偉大だなというのが、みんなの感想でした。ケースワーカーを呼んで、仕事の苦しみやつらいことややりがいを話してもらったり、文科省から出向している教育長を呼んで話してもらったりもしました。

そんなことを50回もやっていると、一緒にやっている人たちは、何をやる時もタイミングが合えば一緒にやるような戦友というか、仲間になりました。20人ほどの運営メンバーは自分たちでイベントを作ったり、チームを作ったりして動き始めたりしています。今は益々色々なことをやって、私がどうこうではなくて、勝手にやっているような感じです。一般社団をつくった人も二人ぐらいいます。そういう人たちがこの10年で役所の中に増えていって、私が「こんなん、せえへんか」と言ったら、「面白そうやね」と言う人が20人中4～5人はいます。何をするとともに何人かは一緒にやってくれるから、超心強いです。

そのうち幾つかの活動について、詳しい話をしようと思います。「ナッジ」というのを聞いたことがある方はいますか。簡単に言うと、行動経済学を活用した行政手法です。例えば有名な海外の事例なのですが、たばこのポイ捨てで困っていたストリートに、こんなものを設置しました。「世界最高のサッカープレイヤーは誰？」と書いてあって、左にはロナウド、右にはメッシと書いてあります。この国はサッカー熱がすごく高いから、「メッシやろ」「ロナウドやろ」と、みんなばいばい入れて、ポイ捨てが激減したという事例です。このように、人の行動を望ましい方向に誘導する手法をナッジといいます。

日本の事例では、大阪大学病院です。新型コロナウイルスが流行する前からあるのですが、「真実の口」を設置したのです。真実の口があると、みんな手を突っ込みますよね。手を突っ込んだら、アルコールが出て消毒されるというものです。

また、イギリスの事例で、全く予算がかかっていないナッジがあります。普通に税金をいついつまでに納めてくださいと送るのではなくて、「あなたの街では、10人中9人が期日内に収めています」と書いて送るのです。すると、締切までに納税する人が67.5%から83%にぐっと上がったそうです。ナッジって、面白いでしょう。

アメリカの事例では、みんなに年金に入ってもらいたいけれど、なかなか加入者が増えない。そこで、「年金に入る人はこれを提出してください」という制度だったのを、

デフォルトで年金に加入することにして、「入らない人だけ提出してください」に変えたら、加入率が激増したそうです。つまり、デフォルト（標準）をどちらに置くかで大きく変わる。臓器提供カードも、「何も書かなければ提供します。提供しない人だけは持っておいてください」にすると、提供率がすごく上がります。国によって全然運用が違うのですが、それがデフォルトという手法です。

日本で実際に実装した事例もあります。八王子市が、「今年度、大腸がん検診を受診された方には、来年度、『大腸がん検査キット』をご自宅へお送りします」と書いたものと、「今年度、大腸がん検診を受診されないと、来年度、ご自宅へ『大腸がん検査キット』をお送りすることはできません」と書いたものと、2パターン作ったのです。そうすると、後者だと何か損する気分になるので申し込みが増えたのです。これは損失回避というナッジを使った手法です。

こういうナッジが日常の業務に使えないかと考えて、得意の自主研修グループとして「尼崎版ナッジ・ユニット」をつくりました。当時、横浜市が日本初の自治体版ナッジ・ユニットをつくったというニュースが流れてきて、今つくったら日本で2番目、西日本で1番になれるということに気付いたのです。それで、1か月ほど勢いでつくりました。具体的にどんなナッジをやったかという、市報に載せる結核健診の受診勧奨の記事を、ナッジを効かせた文章に変えたのです。色々なテクニックを盛り込んで「あなたが検診を受けることで家族を守れます」などとしました。

それから、尼崎らしいもので言うと、住民票を取るときに、なるべくコンビニとか自動交付機で出してほしいので、住民課の窓口で出すと300円だけど、コンビニで出すと200円で、100円安いのです。それで市民課の壁に「コンビニの方が100円安い。あなた100円損していますよ」とぺたぺたと貼りまくったのです。100円でも損をするとなると、みんな動きたくなるのです。

一番効果があったナッジを紹介します。尼崎は高速道路が3本通っているのですが、南の湾岸の方に工場地帯があり、そこでトラックがたくさん止まって、ごみをポイ捨てするのです。「駐車禁止です トラック運転手のマナーが問われています」と書いてある看板の横に平気ですらっと駐車して、ごみをぼんぼん捨てています。こういう看板では、全く効果がありませんでした。これを、ナッジを効かせて変えたのです。「不法投棄で逮捕されます」「防犯カメラで特定中」など、色々なパターンを作って試して一番効果があった「防犯カメラで特定中」に変えたのですが、ごみがゼロになるという劇的な効果がありました。ただ、尼崎に捨てなくなっただけで、他のところに捨てているかも、という話があります。恐らく、ちゃんとしたごみを捨てる場所を用意するか、トラックを停めて寝られるような駐車場を造るとか、そういうことをしないと根本的には解決しないのですが、ナッジを使うと少しだけ良い行動を促すことはできます。

新型コロナウイルス対策のナッジとしては、かなり初期からやっていますが、アルコールまで矢印で誘導したり、手洗い場に「となりの人はせっけんで手を洗っていま

すか」と書いて、周りを意識して洗うように誘導したりしています。それから、シンガポールでは、エレベーターの床に四角の枠と矢印が書いてあって、「こっちを向け」と書いてあって、お互いに飛沫が飛ばないようにしていると聞いて、同じことを商店街の肉屋でやったのです。足形のシールを貼って立つ場所を示すという、今は当たり前ですが、まだこれが全くなかった、本当にコロナの最初の最初ぐらいにやって、実際にソーシャルディスタンスを守れるようになりました。天ぶら屋バージョンもやりましたし、あとはお札で払うときに指をなめる人がいるので、「指ペロ禁止」と貼ったら効果があったそうです。

こういう感染症対策のナッジをどこよりも早くやったから、たくさん取材が来ました。私もNHKに出て、一生の記念になりました。「爆笑オンエアバトル」には出られなかったけれど、『おはよう日本』には出られました。それから、WHO（世界保健機構）から取材されるというオチまで付いています。ある日、仕事に「WHOの○○です」と言って、日本語で電話がかかってきたのです。「嘘つけ！」と思いました。ちょうどそのとき、アメリカがWHOを抜けるというのがニュースになっていたので、これは詐欺だなと思って適当に聞いていたのですが、WHOが各国の新型コロナウイルス感染対策のナッジを集めていて、日本の事例を紹介したいから、日本のスタッフが尼崎の事例を聞きつけ、WHOのWebページに載せていいかという問い合わせだったのです。「どうぞ、どうぞ」と写真を送ったのですが、全部英語で、またWHOなので難しい英語なのです。だから、みんなで力を合わせて翻訳して、「尼崎の載っていたわ。やったな」と言って喜んだということです。WHOのWebページに載ったということがまた記事になり、紹介されたりしました。

これでオチが付いて終わったかと思いきや、実は続きがあって、今年の実境省のベストナッジ賞コンテストに、この商店街チームがエントリーして、最終審査まで残っています。12月にプレゼンテーションがあって、そこでベストナッジ賞を取れば、ちょっとニュースになるというところですが、代表の柏木は「センターマイクを置いて、漫才でやりますわ」と訳の分からないことを言っていて、「おいおい、環境省主催でそんなやって大丈夫か」と言っているのですが、お任せしています。

少しだけ「尼崎ENGAWA化計画」の話をしします。つぶれた喫茶店の跡地をDIYでリノベして、さまざまな立場の人が交わる交流・イベントスペースにしたという取り組みです。僕を含めた3人で、「みんなで集まれる部室みたいなをつくらうぜ」という話になったのがきっかけです。もう閉店した喫茶店で、2年後に取り壊すから好きに改造していいし、家賃も格安で、3万円でどうだと言われました。3人なので、1万円ずつ払って借りるようになりました。

3か月かけて、毎週水曜の夜、この商店街がフリーになるときに集まって工事をしました。私は市役所職員ですが、あとの二人はNPOの人とDIYの専門家で、だからできたのですが、その3人でやりました。できた後がまた面白くて、それぞれ全然違う属性の人間を連れてくるのです。私は公務員などお堅い系の人を連れてきて、あ

との二人は自分のコミュニティから連れてきます。3か月、毎週イベント的にDIYをやっていたから、色々な人が来て、ちょっとずつ塗ったり、釘を打ったりしていきます。オープニングイベントには、そういうことをした人がみんな来て、100人でテープカットをしました。喫茶店からはみ出て並んでいるのですが、この喫茶店の横が100円ショップでちょっとした事件が起きました。みんなこれを切るために、100円ショップではさみを買ったので、その時だけはさみが売り切れてしまうという珍事件が起きたのです。

色々なコミュニティの人が色々な職業の人を連れてきて、尼崎の中で色々な友達関係ができていきました。これは仕事とは全く関係がないことですが、ここを市の政策課などが借りて、住民とワークショップをしたり、そんな関わり方をしています。僕たちが勝手に作ったイベントスペースを市が借りたりしています。

最近、本屋さんで遊んでいます。小林書店という、とても小さなまちの商店街の本屋さんです。先ほど言ったビブリオバトルという読書プレゼンバトルをここでやっています。ビブリオバトルは2か月に1回、もう4～5年やっていますが、今は狭い店内に人が集まるイベントはできないので、オンラインでやっています。本の紹介をして一番面白かった本が勝ちというバトルですが、それをまちの商店街でやると、面白いと思った人は買って帰ってくれるから、少しだけ売上にも貢献できるし、本屋さんが人の集まる場所になるので、地域貢献にもなります。

それだけでは終わらず、小林書店の方も地域に開いた店にしていこうということで、定期的にイベントを打つようになりました。本の作家さんと呼んでトークライブをしたときは、本棚を全部外に出して、三十何人、この店の過去のマックスですが、お客さんを入れてイベントをやりました。「マイパブリック」というテーマで開催したのですが、「この本屋もパブリック空間に変えるぞ」と店の人が言い出して、ベンチを置いたのです。二人ぐらいいしか座れないような小さいベンチです。店が小さいから使えるスペースも小さいのですが、女子高生が帰り道に座ってしゃべったりしているそうです。

ベンチを置いたら、次は机だろうということで、屋台を作りました。これは神戸のNPOで、タイヤ付きの移動式屋台で収納できるようなものを作っている知り合いがいて、材料費は僕が出すから、ここで屋台を作ってほしいとお願いしたら、みんなが集まってきて、みんなで2台作りました。1台は別の商店街に行きましたが、1台はこの本屋さんに残りました。

この屋台で朝飯を食べています。「何で？」と言われるとつらいのですが、長野県塩尻市でやっているみんな朝飯を食べる会をやりたいなと思って、月に1回ぐらい6時半にここに来て、7時半まで朝飯を食べるということをやっていました。朝飯食べるだけのイベントとしては来すぎていて、10人以上来ています。飲み会や餅つきもしました。さらに本屋のおばちゃんが調子に乗って、「ここ貸しスペースにするわ」ということで、一回だけ貸しスペースに使っていました。

この本屋さん、それだけではなく普段から面白いので、それが評判になって、本になりました。尼崎ではめちゃくちゃ売れています。川上徹也さんが、働き方をテーマに、この本屋さんをモチーフにして本を書いてくれました。これもここで終わりではなく、映画化までしました。ドキュメンタリー映画になったのです。本と直接関係はないのですが、映画監督が、この本屋は面白いと気づいて、ドキュメンタリーを作りたいと映画を作ったのです。東京在住の監督なのですが何回か来て、3日ぐらい張り付いて、また帰るといふのを繰り返して、ドキュメンタリー映画を作りました。映画のポスターには、私もばっちり載っています。ビブリオバトルをしたときの映像も映画に使われています。昨日ぐらい横浜で上映しました。時々色々な地方で上映しているので、よかったら見てください。こちらだと十三でやったりしています。というわけで、私も来年3月11日の予定を空けています。日本アカデミー賞助演男優賞の発表の日です。関係者の方がいたら、よろしくお願いします。

最近の一推しが、「壁ゲーマーズ」です。最初はある打合せのときに、高校生が「この白い壁で桃鉄やりたいな」と言い出したのです。ちょうど新しい桃鉄が出た時期です。そのときは笑っていたのですが、その夜、「うまいことやったら、できるんちゃう」と思って、ちょっと考えて、翌日には「青少年健全育成事業」の一環として開催するという企画書を書いて関係者に送りました。「青少年が壁でゲームをするという経験で、不可能と思われる壁を乗り越える経験を通じて成長するため、壁ゲーマーズを実施します」という、訳の分からない企画書をそれっぽく書いて、関係者に「別に誰にも迷惑はかけないから、やってもいいですよ」と。よく考えたら、駄目という理由はないのです。壁でゲームするだけで、何も壊さないし、色を塗るわけでもないで電源を切ったら終わり、現状のままです。それで、「まあええか」となって、1か月で整いました。1か月かかってしまうのは仕方ないです。

桃鉄は権利の関係で駄目でしたが、任天堂だったらできたので、スマホで、みんなでもやりました。公共施設でこんなことをやっていいのかと思われるかもしれませんが、できない理由は何もないのです。何となく駄目感があるだけで、やっていけない理由は何もありません。これはタイミングが良くて、僕は庁舎管理課長と仲が良くて、いつも応援してくれているのですが、当時59歳、この3月で退職になります。どんな書類を持っていってもちゃんと説明すればハンコを押してくれるので、この人がいるうちに実績をつくらうと言って、市役所の本庁舎でもやりましたし、公民館でもやりました。通りかかった中高生が写真を撮ったり、みんなすごく見てくれるので、これからもやりたいと思っています。

これも「ゲームやりました。面白かったです」で終わらず、そのスキームを使ってヤングケアラー啓発動画を作ろうとしています。初めて僕の担当業務が出てきました。アーティストさんでそんなのをやりたいと言ってきている人と話してやっています。この壁で11月からオレンジリボンの期間が始まったら、「私はヤングケアラーですか」というテーマで10人ぐらいがメッセージを言うという動画を、夜7時～9時ま

でエンドレスでかけ続けるということをやろうとしています。役所が作るダサイ動画ではなくて、ちゃんとプロの、その世界で食べている人に作ってもらっています。ただ、これはちょっと自腹が出てしまって、特殊なプロジェクターが要るのですが、1か月流しっぱなしにするという借りられなくて、私に巻き込まれたここの施設長さんがプロジェクターを買ってくれました。

スケボーパークも壁ゲーと一緒にです。高校生が、まちでスケボーをやるところがないと言って交渉してきたのです。うちの市は、市長が直接読む、まちづくり提案箱という目安箱みたいなものがあり、そこに複数からスケボーができる場所を造ってくれという要望が入ってきました。これは担当課に回されるので、最初は公園課に回るわけです。公園課にそんなのが来たら、駄目に決まっています。公園でそんなの許せるかということで断られて、次に私のこども青少年課に来ます。私のところに来たら、「私に任せなさい」ということで、何とかなります。

うちの青少年政策の中で、木育事業とって、青少年が木に親しむという事業があります。そこで、予算上は「本棚を作る」ということになっていたのを、「スケボーパークを作る」に変えることにしました。ちょっと飛躍があるかもしれませんが、木を使えば良いという事業なのでうまく整理して、みんなで作ろうということで、専門家に声掛けをして作りました。

丸一日のイベントを2日間やって、真冬で寒かったです。でも、ランプといわれる設備がちゃんとできました。一応、青少年政策ということになっていますので、スケボーを滑るだけでなく、ここのルールもみんなで作って運営していこう、もちろんマナーを守ろうということでやっています。

「スケボーパークを作りたい」と投書が来て、「公園課に回したらいいんとちゃいますか」「本棚を作ることになっているので無理ですね」「騒音とかあるからな」「誰が作るねん。専門家おらんぞ」「予算がないやんけ。議会、何て言うねん。上司に言えるのか」というのは、全部「できない理由」ではなく「やらない理由」です。できない理由は、今挙げた中にはないのです。壁ゲーと一緒にです。よく考えるとできます。やらないだけです。やろうと思ったら何でもできるのにやっていないだけではないかと僕は思ったりします。

今出てきた中で、僕が仕事でやったのはスケボーだけで、あとは半分趣味でやっています。実は今、「公務員の業務外の活動」が推奨される時代になってきています。あまり広く知られてはいませんが、国の地方制度調査会で、「職員が公務に就きながら公務以外の経験を得る機会を増やすための工夫を積み重ねていくことが考えられる」「多様で柔軟な働き方への需要の高まりや人口減少に伴う人材の希少化等を背景として、地方公務員も地域社会のコーディネーターや有為な人材として、公務以外にも活躍し、地域の課題解決等に積極的に取り組むことが期待されるようになっていく」というような議論をしています。

持続可能性のためには、多様な地域参画が必要です。公務員が行政や政策の専門性

を生かして地域活動に関わる。例えば壁にゲームの画像を映すときに、どんな手続きや許可が要るかを知っているのが専門性です。そのために公務以外の経験機会を増やすことで、コーディネーター的な役割を担えるのだということを国が言い出しています。その背景には高齢化があり、高齢者1人を生産年齢人口2人で支えるようになり、さらに1人で支える肩車型になるとか、今も新型コロナウイルス対策の影響で国の借金が増えています。また、日本創生会議では、2040年までに日本の自治体の半数、896自治体が消滅する可能性があると言っています。その中で、何でも役所がやるのではなくて、地域と一緒に最適化してやっていく社会構造になってきています。

さらに、AI化が進むと職員がどんどん要らなくなります。行政事務員の仕事の97.9%はAIでできるという計算をしている学者もいます。実際、さいたま市では、保育所入所調整にAIを活用し1,500時間が数秒になっていて、尼崎もこれを導入し始めています。そういう時代に何が必要かという、今までは答えがある問いを解く「ジグソーパズル型」人材が必要でしたが、それはAIがやってくれるので、人間の方は自分ではめて新しい価値を創造する、形を作る「レゴ型」というタイプの人間が必要になってくると、ある人が言っています。ジグソーパズル型人材はインプット型研修やOJTでできるでしょうが、レゴ型人材はどうやってつくるのかというと、教えてできることではありません。外の世界で、パラレルキャリアで己を磨いて、スキルを身に付けて、レゴ型人材になっていくしかないと思っています。

最後に、皆さんここまで話を聞いて、僕が仕事をしていないと思っているでしょう。ちゃんと仕事もしているのです。すごくして、今ぐらいの勢いで全部の仕事をしています。尼崎では見せていませんが、人事評価は上位5%に入るランクで、ボーナスは割増で頂いています。これは自慢ではなく、人材育成部門の人に言いたいのですが、外で色々アホなことをやっている人は、外で無茶苦茶鍛えられて中でも使えるようになります。これは間違いないので、こういう人に「やめておけ」とか「目立つな」と言うのではなく、「どんどんやってこい。最強の戦士になって帰ってこい」と好きなようにさせるのが、結果的に組織最適化というか、必要な人材が生まれるようになるのではないかとというのが私の意見です。

副業から得られるスキルにはどんなものがあるかという、まず当然ながら、人脈ができます。相手が自分を知っているということはすごく役立ちます。それから、イベントをやるときに手伝ってくれる人が多くなります。こうしたことは、OJTだけでは身に付きません。外で色々な経験をして、時には怒られ、時には傷つき、時には小腹でプロジェクターを買ったりしているうちに、できるようになるのではないかと思います。外で無茶苦茶していると、中でも「おまえだったらできるだろう」と、ちょっと無理のある仕事やどんどん降ってきます。もう間に合わないだろうというような仕事をどんどん振られて、何とかスケジュール内に押し込んで仕事をしています。だから、人事評価も高いのでしょう。

生駒市長のコメントをご紹介します。「本業ができてから副業と言っている時点で、

全然駄目。副業している職員ほど、本業でミスったら余計なことをしているからだと言われるのが分かっているから、今まで以上にきちんとする」というものです。

副業やパラレルキャリアでは、経験と人脈を、役所の外に積み重ねていくのです。役所の中の積み重ねは、次の職場で使えない知識などは人事異動で消えることがあるのですが、外に積んだものは消えないので、どんどんたまっていきます。また、自分が好きなことを外でやるので、そこでのプレゼンスが高まると、中でも「あいつ、ああいうの得意やな」「今度こんな仕事があるけど、あいつにやらせたらいいんじゃないか」と回ってくる。回ってくると、自分の好きなことでスキルもあるから、結果が出ます。アウトカムが出て、誰が得しているかという全員なのです。そのサービスを受ける住民もそうですし、組織も職員の力を引き出せるし、自分自身も楽しくやりがいのあることができます。まさに三方よしというところが、パラレルキャリアのメリットです。

ただ、パラレルキャリアや人がやっていることと違うことをすると、また別のコストがかかる、例えばよく怒られたりします。今、性教育関係の事業も担当しているのですが、教育委員会からは、「そんなんするなら言っておいてもらわんと」「それは向こうに話通っているんですか」とか、さんざん怒られました。でも、全てを整えてから進めていては間に合わないし、突き抜けてやってしまえば、性教育の新しい方針ができたりするので、多少怒られても仕方ないと思ってやっています。僕はいつも、仕事でやりたいことが周ってこなかったら、プライベートでやるだけだと思っています。そういうふうになっていると、面白おかしく、ワクワクする働き方ができるのではないのでしょうか。

TEDに、「社会運動はどうやって起こすか」というデレク・シヴァーズの有名なスピーチがあります。最初に一人裸の男が踊り出して、それをみんなが真似し出すのですが、その裸の男が偉いわけではないのです。今日は色々な話をしましたが、それを皆さんが再現するとか、自分でやり始めることだけが、ワクワクする方法ではありません。そういう変な人が周りにいたら、その人が変人のままいられるように、心が折れる前に手伝って応援して、その人を祭り上げて、みんなが集まってわっとなるようにするというポジションもあります。自分が裸で踊らなくてもいいから、裸で踊っている人を「頑張れ、俺が応援したるやんけ」と言ってあげる人になっていただけたら、裸で踊るリスクを取らずにワクワクするまちづくりができる人になれるのではないかと思います。僕が話したことを「こんなん、ようせんわ」とか「こんなん大変やわ」と思わずに、「やってるやつを応援するだけでええんや」というくらいの気持ちになっていただけたらいいかなと思います。

私の話は以上ですが、引き続き私が進行します。参加者同士で話をして、感想や質問を集めていただいて、それにお答えする時間を取ることになっていますので、お隣の人と感想や質問をお話していただけたいと思います。簡単に自己紹介と感想、そして質問を付箋に書いてください。1付箋1質問で、たくさん書いて出してください。

ペアで話し合い

(江上) たくさん質問を頂いてありがとうございます。これを見ると、すごく聞いてくれたのだなと思って嬉しいです。すぐ答えられそうなものから答えていきます。

「自分のお金を使って怒られないか」。自分のお金を事業費に使ったら駄目です。壁ゲー、ヤングケアラーの動画を流すものは、ヤングケアラーの動画を作るのは事業費でやっています。そこに壁ゲーマーという自主研として参加しているのですが、その自主研としてプロジェクターを仲間内で買っているだけです。そういう形で、事業費と自腹を分けています。でも、自分のやりたいことでゲストを呼んでもらって、その飯代を出すとか、高校生に食べ物を買うとかはやっていますが、別にうちでは怒られません。

「本棚の予算をスケボーパークに流用するのに財政課は大丈夫か。議会は大丈夫か」。予算書には、木育をするということが書いてあって、何を作るかまでは書いてないのです。記録が残るような場面での質疑はありませんでしたが、議会で「何を作るねん」と聞かれたら「本棚です」と言っていたとは思いますが、それが年度途中の執行で「スケボーパークにしました」と言っても大丈夫だと思います。怒られたら「すみません」とで許される範囲だと思います。あまり気にしていません。議会や財政課の権限を踏み越えるようなやり方はしません。ルールの範囲内でやっています。

「嫌いな人はいますか」。嫌いというか、やらない人とか、できない理由を言う人は嫌いです。僕は、市民がどう感じるかで判断するタイプなのですが、例えば低体重で生まれたお子さん向けのハンドブックを仕事で作ったときに、伊丹市に住んでいる方から欲しいという電話がかかってきて、同僚が「伊丹の人には渡せません」と断ったので、僕はすごく怒って、「そんなことのためにやっているんちゃうやろ。どこ見て仕事しとんねん」と言って議論しました。でも、そっちはそっちの考え方がありますよね。市税を市外の人に使うべきではないというのはそれはそれで正解で、1つの考え方です。ただ、僕は、そんなのは関係ないだろうという考えなので、嫌いではないのですが、価値観が合わないときはあります。

「次に転職するなら何になりたいですか」。これは「辞めるんでしょう？」とよく聞かれるのですが、僕は公務員が好きなので辞めないつもりです。なぜかという、僕はそれなりに面白いことをやっていると思うのですが、これは公務員がやっているから面白く見えるけれど、フリーランスのプロデューサーがやっているとしたら、何かちょっと違うのです。僕は金を生んでいなくて、全部まちで楽しんでいるだけです。だから、転職は難しいです。転職してこんなことをやっていたら、これは全部収入がないので食べていけません。壁でゲームをしても1円も儲からないでしょう。でも、役所を定年退職したら、そんなのをプロデュースしたり応援するようなことができたらいかなと思います。住宅ローンが68歳までありますから、60歳以降ですね。

「スケボーの板はどのように管理しているのですか」。スケボーは各自持参です。

ランプなどの道具は、保管は重要なので、屋根があって保管ができる前提で場所を探したのですが、うちの青少年政策をやっているユース交流センターというのが敷地内にあって、そこの一角の自転車置き場に屋根があったので、自転車を違うところに停めてもらうようお願いして、そこに置いています。

「面白くて、仕事もできて、人脈もあって、モテるのではないですか」。いじってきたな。この質問をしてきた方は友達なのです。モテはしないですが、一人だけ僕をすごく推してくれている若い人がいて、「次の選挙に出てください」と会うたびに言ってくるのですが、住宅ローンが68歳までであるから無理ですと断っています。これは二人の間での定番のジョークなので、転職する気はありません。

「どんな本を読みますか」。僕が色々な本を引用したからですね。僕のインプットは本ではなく、ドキュメンタリー番組が中心です。地上波の主要なドキュメンタリー番組は、全部録画しています。『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV特集』、夜中にやっている『映像'21』などを全部録画して、役所が関係するものは全部見て、面白かったものは全部残しています。それで気になった本を買ったりしています。

「壁ゲーマーズは何人集まりましたか」。今日動画で見てもらったものは20人か30人ですが、市役所本庁でやったときはひどかったです。あれは3月末ぐらいだったので、大雨だったのです。でも、市役所でやったという実績を、何でもハンコを押してくれる課長がいる間にやらなければいけないから、傘をさして身内4～5人と、お客さんが親子で2組ぐらい来て、その2組がゲームをやりまくっていました。実績を残すために無理やりやったので、そんな感じです。あとは、公民館では引きこもりの若者を支援する団体と一緒に非公開で開催したりしています。だから、そんなに人数は来ないですし、スマブラも1回4人が上限なので、50人も来たら順番が回ってきません。

「人付き合いがしんどくならないですか」。これは時々あります。なったら酒を飲んで寝て、回復するのを待ちます。寝たら何とかなるとい感じです。睡眠時間はたっぷり取っています。

「業務で人手不足を感じませんか」。仕事をたくさんやっているので、人手不足はあります。でも、全部やりきっています。仕事ができているのに、副業でわいわいやっているのは、良くは見えないので、本業はめちゃくちゃ頑張っています。では、同じ時間で、なぜ他の人より多くこなせているのかというと、私は人にどう思われるかを無視して、アウトカムから行くので、いきなり違う部署の部長に電話したり、いきなり関係者のスケジュールを全員入れて、会場を設定してから準備をし始めるとか、アウトカムを絶対にして、そこに間に合うクオリティではめるとい少し強引な手法を使っているのです。人手は足りていないのですが、何とか全部をスケジュール内で質高くアウトカムするよう心がけています。

「家族の中で立場が低いのに、そんなに家を空けられるのか」。最初のルンバの話聞いてくれていたのですか。ありがとうございます。「私の家もお掃除ロボットを

購入しました」。家族系の質問を何個かもらっています。「家族の時間は取れていますか」「仕事の両立は」「家に帰れますか」。イベントなどで家を空けることは多いのですが、それは、「この日とこの日はいません」と言っていて、残りの時間は妻が僕のスケジュールを全て使っていいことになっています。ですので、僕は自分の取り分だけ確保して、あとは全部お上が没収するのです。迎えに行くとか、そういうのは全部指示通り動きます。家事はジャンルで全部分けているので、掃除と洗濯は全部僕、ご飯を作るのは妻、送りは僕で、お迎えは妻みたいな感じです。完全に分けているので、僕は自分の担当をちゃんとやるというだけです。

「業務外活動と業務のバランス、残業などで業務外活動の時間が不足しないか」。業務外活動は不足します。でも、自分が好きでやり始めたことだから、はめるしかないです。「今月忙しいので、イベントはやっぱり中止します」とは言えないので、無理やりやっています。間に合わないときは、早朝、昼休み、夜にやっています。

「NPOとともにまちづくりしていく手段」。この質問は難しいですね。NPOと一緒にまちづくりをしていくにはどうしたらいいか。僕も結構、NPOさんとお付き合いがありますが、役所の人としてではなくて、そのNPOがやっている趣旨に賛同している当事者として付き合っています。だから、仕事で縁があったNPOの会員になって、その後も月会費を払っているということも結構あります。お金が出ていくばかりです。プライベートでもその会に行ったり、当事者になるということをやっています。

「人を巻き込むのは難しい。コツはありますか」。これは素晴らしい質問です。コツというと、みんなそれぞれ得意な手法があると思うのですが、僕の場合は、完璧なフラット化と絶対に仕事感を出さないことです。僕の仲間たちは僕のことを役職で呼んだりしませんが、僕が提案したことを普通に否決したりします。「うそ？俺が代表なのに、俺の意見通らんのか？」みたいなことはよくあります。

仕事感を出さないというのもすごく重要。あるイベントで、私はスタッフとして参加していたのですが、主催者が「スタッフは当日、自分の参加費はお釣りがないように持ってくるように」と指示したことがありました。普通のことのように聞こえますが、これはやらない方がいい。みんな好きで、有志で集まってやっているのに、偉い人に「お釣りがないように持ってこい」と言われた瞬間、それは仕事になってしまう。若手のスタッフからのお願いなら良いんですが、上司から命令口調で言われたらダメです。気にならない人もいると思うのですが、自主的な活動では、「上から指示する」という要素は全排除した方がいい。境界線は難しいのですが、「そんなん言うたらもう仕事やんか」という線は超えないように細心の注意が必要、ということです。

「面白いこと、楽しい企画を思いついたときに、周りを巻き込むテクニックはありますか」。難しいですね。「賛同してくれないと不安になりそうです」。僕の基準は、僕が面白いと思うか、僕が自分の時間を使って参加したいと思うかです。その基準で合格したことをやっています。「こういうテーマがこれから大事やから、みんなで勉強しないか」と言うのと難しいです。そういうまじめなものは、自分が担当だったら行

くけれど、担当でなかったら行かないなというものと結構難しいのですが、でも、担当だったら行くかなというのがあります。でも、全部が全部すごく面白いイベントばかりではないので、「こんなん、どう思う？」という感じで、人に参加したいと思うか聞いてみるのもいいかもしれないです。僕は僕に聞くという感じです。

「チームとしてワクワクするモチベーションが上がる取組みに対して、どういったアドバイスがあるか」。誰もやっていないことでなくても、他のまちでやっていて面白いことで、うちのまちでは誰もやっていないことだったら、すごくワクワクすると思うので、そういうものを外で見つけてきて中でやってみるのがいいと思います。自分自身の好みや得意分野もあるので、少人数、小規模からやってみるのがいいと思います。いきなり大きなことをしなくていいと思います。

「当初、反発などはなかったですか」。このご質問をよく受けるのですが、よく考えると、僕がやっていることは自主研修なので、業務時間外にやっていることなのです。だから、パチンコへ行くのも自主研をやるのも一緒なのです。「パチンコへ行ったり、飲みに行ったりすることに反発とかなかったですか」とは聞かないでしょう。「僕が自分の時間に勝手にやっていることを何を言われなあかんねん」ということです。ただ、周りからどう見えるかみたいなことはあると思います。ずっとやっている、みんな「あいつはそんなやつや」になって大丈夫になります。

「最初の活動は何ですか」。夜カツの立ち上げですが、その前段として、博報堂の人を市が外部登用で採用して、その人とつるみまくって、「何か面白いことやりましょうよ」ということで言い出したのが最初です。

「夜カツのきっかけ」。当時、行革などですごく閉塞感があったので、それを変えたいなということです。自主研みたいなものもなかったもので、立ち上げてやり始めたという感じです。

残りは後で答えますが、最後に答えないものがあります。「やらないを理由とする体制を変えるために何ができるか。何がそんなに動かすのか」という核心的な質問に最後お答えして終わります。僕の中では、『週刊少年ジャンプ』なのです。友情、努力、勝利です。市役所の職員が主人公で、少年ジャンプに連載するとしたら、どんな話だろうと考えるのです。恐らく悪役は保守的な人たちや、「そんなんやめておけ」と言う人たちだと思うのですが、そういう敵を倒して、みんなの希望をかなえてあげる。だから僕の血は少年ジャンプでできているのですが、市役所の職員が主人公の漫画だったら、こうやるだろうなというのを楽しみにやっています。

では、お時間になりました。答えられなかったものは、この後の意見交換会で答えたいと思います。どうもありがとうございました。

意見交換

(司会) 定刻になりましたので、意見交換会を始めます。まずは、貴重な時間を取って

いただきました江上さん、どうもありがとうございます。また、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございます。皆さまご意見、ご質問等あると思いますが、先ほどの講演会でいただいた質問が残っていますので、そちらの回答からお願いしたいと思います。

(江上) では、先ほど時間中に答えられなかったものを最初にお答えします。

「公務員、特に市役所を目指したきっかけについて」。二次会なので、全部言ってしまう。漫才師を辞めたときは、28歳、世間的には職歴なしの状態です。まともな就職先はなかったので、資格を取るか、公務員試験に受かるか。芸人の延長で番組制作会社も受けていたのですが、勉強は嫌いではなかったので、ご縁があって尼崎市役所、という感じです。「なりゆき」が近いです。「住民のために」という情熱から始まったわけではないです。

「市役所の活動を広げるコツはありますか」。これも先ほど言ったのに近いです。フラットな関係性。文化系サークルのノリと言われたりします。仕事感を一切出さないです。だから、締切とかも言わないです。「こんなんやるけど、みんなでやれへん?」「じゃあ、これお願いしていい?」とか言って、誰か忙しくてできなかったら、主催者とか僕が代わりに全部埋めるという感じです。だから、何も押し付けない。大変ですよ。

「これから新しいことをする予定はありますか」。今のヤングケアラー動画は新しいです。あれも本当は、ヤングケアラーの当事者や大学の先生を呼んで勉強会をするための謝礼という予算だったのですけれど、啓発動画を作成する謝礼に代えようということで、許される範囲で別の使い道をしています。それから、NPOと組んで、性教育トイレットペーパーを市内の小学校に400個設置するというのを進めています。性に関する情報をトイレットペーパーに書いておいて、使いながら学べるというものです。結構踏み込んだ内容になっているのですが、NHKが取材に入る予定なので、NHKを見ていただければ映っているかもしれません。

「副業について、職場の許可が要るか。報酬はもらえるか」。これは公務員の一般的なルールと同じで、講演と執筆は無許可でOKになっています。そもそも副業でないという扱いになっています。僕はやっていないのですが、大学で非常勤講師になる場合などは許可が要ります。営利企業だと許可が降りないなど、ルールは一緒です。

「イベントの告知はどのように行っていますか。ホームページ以外でもしていますか」。最近、イベント告知は、私からはあまりしていません。スケボーパークはスケボーのインスタがあるので、そちらでしています。私は最近裏方に回って動かししているから、あまり告知していませんが、僕のFacebookで告知することもちよいちよいあります。40歳ぐらいの公務員が使う告知手段といえばFacebookなのです。

「自主活の作り方。時間外、休日に職場の人間を見たくないという意見が多い」。それは仕事感が自主研に出てしまっているからではないですか。全然関係のないこと

だったらいいのではないですか。だから壁でゲームしていて、職場の人間が見に来ても別にいいですよ。それは違うかな。職場の人間と組んでいる感じではないのです。尼崎は職員が3,000人いるのですが、そのうち僕とアホなことを一緒にやっているのは20人もいません。その20人は職場の人間ではなくて仲間です。部活動の仲間みたいな人たちとつるんでいます。

「青少年育成事業で、その他、工夫した事業はありますか。地域と一緒にしていることなどありますか」。先ほど言ったスケボー、壁ゲー、性教育トイレットペーパーと、去年は本棚を作る予算でウッドデッキを作りました。建物の前に木で組んで、椅子と机を置いて、裸足で過ごせるようにしました。今は青少年の居場所として、若い子たちがそこで飯を食べたり、宿題をしたり、DSをやったりしています。「本棚を作ると言っていて、全然作らんやないか」というのを10年ぐらい続けようと思っています。「いつ作るねん」という、あるある早く言いたいみたいに、全然作らんやんけという感じでやりたいなと思っています。

「失敗した経験はありますか」。うまくいかないことはあります。全然人が来ないとか、空振りは多いです。すごく大変だったイベントを一発やって、それが何にもつながらなくて一回で終わりとかはありますが、それは失敗ではなくて、プラマイゼロだから、損はしていないのです。

「やらないを理由とする体制を変えるために、何かできることはありますか」。すごい質問ですね。やってから言い訳を考えるというのはどうですか。怒られますか。僕は結構ごりごりやってしまうのです。怒られるぐらいで済む範囲でやりすぎでいくというのを繰り返して、でも、性教育トイレットペーパーを小学校に入れて、テレビに放送させるというのを無理やりやっているのですが、一応その担当部署にも「こうやるから、いいか」と情報だけは入れています。それを続けていったら、なし崩し的に、「ああいうふうに強引にやっていったら、うまい方向に回るんやな」とみんなが気付きたしたら変わっていくような気がしています。ストレートな答えになっていないのですが、「やらない」を理由とする体制を変えるためには、「やっちゃう」を見せ続けるというのでどうでしょう。けがしない範囲でという感じです。以上です。

(司会) ありがとうございます。では、ご質問、ご意見、ご感想、その他ございましたら挙手をいただいて、お話しください。

(受講者A) 私は江上さんの友人で、江上さんの活動を以前から見ています。江上さんのようになりたいと言ったらおこがましいですが、あこがれ、オンリーワンな公務員だなと本当に思います。周りの職員でも、ここまでのバイタリティというか、やっている人を見ていなくて、自分だったら何ができるのかなとなったときに、自分のやりたいことが地域と結びつかないというのでぶつかったりします。例えば僕だったら落語をやっているの、この前、中学校に落語を教えに行ったのですが、それはそれ

で単発で終わるとか、職場でボードゲームが好きな人がたくさん集まってやるけれど、それで終わる。それは好きなことをやっているけれど、別にそこから何か派生することもできてなくて、結局そこ止まりで、何も住民、地域を盛り上げるという発想までいってなくて、そんな段階で止まっているのです。何か悩み相談みたいになっていますが。

(江上) 十分ではないですか。その活動をもっと広げたいという感じですか。

(受講者A) それをもっと色々な職業の人たちとか巻き込んでみたいんです。

(江上) でも、やりたいことは、例えばボードゲームをみんなで楽しみたいのですね。だから、それを無理やり地域の資源として活用しなくても、それは活動できていると言えるのではないですか。僕は地域と何かやりたいけれど、手段は何でもいいというスタンスなので、壁ゲーとかは、神戸が公共施設でアートをやっているのを見て、あれは無理だけれど何かできないかなと思いついただけです。スケボーパークも、今はやっているから、本棚よりもいいかなと思ってやっているのです。だから、浮気性というか、別に何か成し遂げたいものがあるわけではなくて、そういうインパクトを生むことを目的にしているから、落語が好きで落語をやっているのは、それが目的ですよ。僕は、かき回したいというのがあって、かき回しているから、それはそれでいいのではないかなと思います。落語やボードゲームを使ってかき回したいのであれば、それはまた別のことなので、かき回されたいと思います。まじめに答えました。

(受講者A) ありがとうございます。壁ゲーもそうですが、それはきっかけもあったと思いますが、アイデア力というか発想力みたいなものが非常にあるのだなと。

(江上) そうですね。あれはたまたま高校生が言って、「いや、できるんちゃうか」となっただけです。それまでは公民館や体育館の中で、大スクリーンでゲームをするとかはあるのです。それはあまりワクワク感がないと思って、公共施設の壁でゲームをやっているという、ちょっと悪いことしている感がいいのかなと思って、でもきっかけですよ。高校生と話す場に僕がたまたまいたからそうなったというだけですし、うろろろしていたら面白いものに会おうのではないかなと思いました。

(受講者B) 今日は楽しいお話を聞かせていただいて、ありがとうございます。お話の中で僕が興味を引かれたのがナッジ理論です。例えばうちの公園課は、色々な公園を使って、NPOなど色々な団体に企画してもらってイベントを実施しています。そのときにチラシを作るのですが、どうしても役所のチラシは堅いのです。きらびやかなチラシは作れるのですが、見ていて面白くないのです。そこでナッジ理論はすごく参考

になると思いました。ナッジ理論で、これはと思うものを作るための参考になる本などがあれば、ぜひ教えてください。

(江上) ナッジを説明するプレゼンも1時間のものであるのですが、ちょっと今日は無理ですね。本はたくさん出ていますが、『仕掛学』という、阪大の先生で、バスケットボールの下にゴミ箱を置いたら、みんなそこにちゃんと投げるようになるという表紙の本です。『ヘンテコノミクス』という、漫画で行動経済学を紹介してくれている漫画があって、分かりやすいです。でも、本を買わなくても、ナッジをやっている人が載せているホームページやプレゼン資料ですごく詳しいものがありますし、内閣府の資料とか、僕はそういう資料をたくさん集めたのですが、そういうものでも十分参考になるかと思います。チラシは難しいですが、「ナッジを知っていたらそんな表現はしないのに」ということは解消できると思います。地元の阪大に、ナッジの先生が何人かいるので、誰かに教わって、ぜひやってみてください。

(受講者C) 貴重なお話をありがとうございました。すごく漠然とした話なのですが、私は保険の仕事で10年ぐらいやっています、元々は地域の人と一緒にイベントをやったりするような仕事をしたいと、役所に入って最初の2年間だけそれができました。その時期はすごく楽しくて、保険の課に移動して、そこからずっと保険をやっています。やりがいはあるのですが、ワクワク感はなく、日々の仕事をこなしていつか、締切までに何とかやって、終わったら次の仕事に向けて頑張るという中で、「終わった、やったー」というのはあるのですが、仕事がとても楽しいという感覚はあまりないのです。仕事ってそんなものかなと思っている部分はあるのですが、でも、僕はまだそんな大きな子どもがいるのですが、子どもから見たらこんなお父さんはどう見えるのかなと思いつつ今日の話聞いていたら、ワクワクしながら仕事をされていて、すごく魅力的な人に見えるなと思いました。

かといって、自分で地域の人とつながって何かをするというのはすごくハードルが高く見えます。なので、遊びでも友達とのプライベートでもなく、完全な仕事でもない、でも、職場の人と一緒にできるような、それが自分の好きなこととつながっているというようなこと。例えば僕は料理がすごく好きで、スパイスカレーを作るのが好きなので、そういうことに興味のある人と一緒に公民館を借りて、休日にみんなで作ってみたり。実は、私も吉本の養成所に行っていたのです。

(江上) そうですか！僕は松竹の養成所でした。

(受講者C) 多分、江上さんの今の相手さんと僕は同期です。32期です。

(江上) 言っておきます。

(受講者C) 当時の彼女の名前を自分の芸名にしていました。先生に、「おまえ、別れたらどうするねん」と言われて、結婚したのですが、もしかして知っていたら分かると思います。

(江上) 「何の話やねん」と突っ込もうと思ったら、ハッピーエンドでした(笑)。

(受講者C) そのときは仕事を辞めて、好きなことをやろうと思って、吉本に行ってお笑いやったらすごく楽しい。でも、それを仕事にするとしたら、すごく難しい部分があって、でも、好きなことをしながら仕事もするとしたら、そのときは公務員であれば民間と比べれば時間の自由が利くと思ったので、公務員になって、仕事をしながらやっていたのです。でも、今は忙しくて、そういう時間も取れず、日々の仕事をこなすだけになっているのです。では、ワクワクしたことを、友達と遊ぶ以外で何かやっているかと思ったら、何もやっていないし、そんな中で、今日参加してみようと思ったのは、自分がやりたいことをきっかけにして、誰かを一緒に巻き込んで、そこには仕事感も入れずに、職場の中で新しく、もう一つの世界をつくと仕事が楽しくなるのかなと漠然と思ったのですが、どう思いますか。

とにかく、日々の仕事を楽しくしたい。でも、今やりたいことではないという感じなのです。でも、それは皆さんも同じで、異動したら異動先でどんな仕事をするか分からないし、異動先によって上がったり下がったりが多分あると思います。でも、どんな職場に行っても個性を出せて、ワクワク生き生きとした感じで働けたら、すごくいいと思うのです。

(江上) なるほど。みんなで考えて、みんなで相談に乗りたいぐらいですが、僕の考えでは、まず、今の職場に10年もいるというのは、とても必要とされているということだと思うので、誇っていいと思います。だから、お子さんがどう思うかは全然心配しなくていいと思います。

仕事を楽しくするには、仕事からはみ出していくのがいいと思います。大変だと思えますが、少しずつプライベートでアクションを起こしていく。僕もそうだったのですが、自分が主催者でなくていいので、最初は参加してみるところから、何か面白そうなところに参加するとか、尼崎ではよくやっているのですが、みんなが自分のやりたいことを持ち寄って盛り上げるみたいなイベントがあれば、そこに参加して、スパイスカレーを出すブースを出してみたりしていると、だんだん巻き込まれて、面白く転がっていくと思います。参加してみようというのがいいと思います。参加しているうちにプレイヤー側に回るといのは定番のパターンです。

少し踏み込むのだったら、結構荒療治なのですが、プロボノという、一歩踏み出したい人を地域貢献にはめてくれる団体もあります。大阪でやっていますが、サービスグラントというNPOがプロボノといって、色々な人が自分の得意なことを持ち寄って

チームをつくって、NPOや地活協に入って課題解決に取り組むのを支援したりするのですが、そこでは公務員はすごく重宝されて、「文章が書けるでしょう。法律に詳しいでしょう。役所と折衝できるでしょう」みたいながあるので、少しハードルは高いですが、ボランティアから一歩踏み込んだ感じなので、そういうプロボノをやるのもいいと思います。

仕事を楽しくするのは難しいですね。これ以降、コメントをされる方は、どうしたら仕事楽しくなるかと併せて質問いただくようにしましょう。僕は、ちょっとはみ出して色々やっているうちにという感じです。実際の担当業務は、ごりごりの青少年政策の堅いところをやっているのですが、それを無理やりはみ出させて楽しくやっているという感じはあります。でも、お堅い仕事をやらされても、そこにクリエイティブティを何とか埋め込みたいなどは常に思っております。そんなことで大丈夫でしょうか。まずは参加してみるところからでいいのではないかと思います。

(受講者D) 今日に来て良かったなと思っております。私も市の中で自主研究グループをやっていて、その面子で今日は来させてもらっています。その中で、自分のテーマというか、職場の中にも、年上の人で、やる気がない人や動かない人がちらほらいます。ただ、限られた人数の中で成果を出さないといけない。自分は、楽しんで仕事をさせてもらっているのですが、どうしても、そこを引っ張ってあげられないのです。先ほどの江上さんの話ですと、仲間内というか、気の合った面子でやっているという話だったのですが、逆に、自分とは違うところの人たちをどう扱ってきたのか、参考に聞かせてもらえたらなと思います。

(江上) 無視です。職場のやる気のないおじいちゃんですね。そこはコストをかけてはいけないところだと思います。無視することが一番コストがかかりません。これは僕がというよりは、マネジメントの話になってくると思うのですが、2：6：2の法則や1：8：1の法則、イノベーター理論など色々ありますが、全体の中でやる気のない人を切ったら、残っている中間層がやる気のない人になるという話もありますね。そこを何とかして組織全体をというよりは、残っているメンバーをどう最適化するかだと思います。

僕が結構好きな話があって、組織全体の中で、「こいつ、ほんま何も働かへんやつやな」という人がいるとして、でも、その人には一定の存在意義や価値があるという理論があります。その人たちがいるおかげで、その人たちのちょっと上の層が頑張れるという効果があるのです。だから、「自分が本当に何もしない人ではないということ」で頑張れる中間層みたいなものがあるから、そういう「何もしない人」にも価値があるのだと聞いて、そういう人たちへの見方を改めて、「そうか、そうか。そういう役割でやってくれていて、みんなを頑張らせてくれているんだな」と思うと、そんなに腹が立たなくなってくるのではないかなと思っています。だから、そこに固執する

のではなく、もっと前向きな人や、これからの人が腐らないように投資する方がいいと思います。

(受講者D) ありがとうございます。その話は聞いたことがあって、自分もそういう考え方をしているこうとは思っているのですが、いかんせん、自分が思っているだけで、周りはそう思っていないくて、お酒を飲んでいても愚痴が多かったりします。自分はまだ一番下っ端で、マネジメントする立場ではないので、まだそんなことを考えるのも早いだらうと言われることもあったのですが、そういうときはどう切り返していますか。

(江上) 僕は、愚痴は聞いていないです。「そうっすよね」と言って、何も聞いてないです。昔、文句ばかり言っている上司がいましたが、そういうネガティブを人にぶつけるタイプの人は、自分がネガティブだけでなく、周りもネガティブな気持ちにさせてしまうから、マイナスなのです。性格は治らないので、聞き流すのが一番いいです。そんな雰囲気ときは、自分だけは前向きな空気を出すのがいいような気はしますが、周りを変えようとまでしなくてもいいと思います。やはりこれもコストなので、自分の仲間たちとか、これからの人たちにコストを向けた方がいいような気がします。だから、僕も批判や悪口をすごく言われますが、「分かりました」と言って、無視しています。自主研の活動は、「ちょっと減らせ」と上司に言われたこともありますが、「分かりました」と言って全く無視しました。僕がプライベートでやっていることを言われる筋合いはないと思っています。別にパチンコに行ってもいいでしょう、飲み会に行ってもいいでしょう、それなら自主研したっていいだらうと思って聞き流します。

(受講者D) ありがとうございます。自分の性格もあると思うので、自分がしてこなかった立ち回り方を聞いてすごく参考になりました。

(江上) 恐れ入ります。色々な人に邪魔されても無視します。僕のイメージは、ラグビーです。色々な人がしがみついても止めようとするのを無視して、何事もないように走っていきたいのです。しんどいですけれどね。

(受講者E) 今日はどうもありがとうございました。このセミナーのチラシを見て、高校生と予算ゼロから82日でスケボーパークを造ったと、これに飛びついて参加させていただきました。ちょうど東京オリンピックで金メダルを取って、他の自治体さんもそうだと思うのですが、好きでスケボーをしている若い学生さんや小学生になかなか居場所がないというところで、本市でもスケボーパークを造った方がいいのではないかという話もあり、自主的にそれに関わりたいという民間の方もいらっしゃるのです。そんな中で、金メダルを取ったこともあって、「スポーツでしょう?」と言われるの

ですが、「違うでしょう」と思うのです。みんなが集まれる場所というのは、スケボーだからスポーツとは限らないのではないかということもあって、こういった形でやりたい人たちが集まってスケボーパークを作るという仕組みづくりが、市のやりたい、民間の方を巻き込んだものができるのではないかとということもあります。そういった仕組みの中で高校生たちがやって、その後、どのような形で活動されているのかということをお聞きしたいというのが1点です。

もう1点は、私もワクワクしたいということで来ましたが、自分の仕事でやりたいと思うことを前課で色々やってきたのですが、異動になると、その次の担当の方に、なかなかそこまで引継ぎできなくて、職員の時間がかかるからやめておくというので、予算を付けてやりましょうと言っていたことがなくなってしまい、とてもがっかりしたのです。そういったところで、解決されたことはありますでしょうか。

(江上) スケボーパークができた後は、運営のルールメイキングという別のアプローチから若者の育成活動につなげることにしています。ですので、今は使い方のルールメイキングをしています。あとは、元々スケボー少年少女の目標は常設のスケボーパークを造りたいということだったので、今は週末にエリアを区切って出してきたのですが、打ちっばなしのコンクリでできたらという話をしています。尼崎は競艇場があるので、競艇場の中にできないかという話を、競艇場の職員にプレゼンさせてもらったり、今度、市長も入れて、鳴門のボートレース場にそういうがあるので、それをみんなで見に行くことを予定しています。なので、具体的にアクションに結び付ける動きはしていますが、競艇場の中にスケボーパークを造るとなると、競艇場の仕事ですし、市長の判断になってくるし、本音で言うと難しいと僕は思っています。ただ、そういう経験をさせて、市長と一緒に考えてくれるとか、職員と一緒に付いてきて考えてくれるとか、自分で競艇場にプレゼンしたけれど、けちょんけちょんに言われてできなかったみたいな経験をしてほしいというのが、青少年政策の担当としての思いです。だから、できなくてもいいと思っています。

「異動で引き継げなくて事業が継続できなかった」という話は、面白いことには賞味期限があるので。だから、ちょっと無責任ですが、手を放してなくなるのだったら、それは賞味期限が切れたのだと思います。僕のやっているもので、今日紹介しなかったものでも、やめたものがたくさんあります。

例えば喫茶店をリノベして居場所をつくったENGAWA化計画も、元々2年という計画だったので、つぶしてもうないのです。多分、二度と同じチームで同じことはやらないと思います。それは、そのときちょうどリノベが流行ったし、居場所も流行ったし、すみ開きのなものも流行ったし、地域に開いていくというムーブメントも、尼崎を含めて全国であり、しかも僕たちも若くて「何かやってやろう」というタイミングが合って、できたのです。2年ぐらいやって十分ですし、同じことをもう一回やってもインパクトがないから、もうやらない。終わりです。

本屋さんで活動していてビブリオバトルをやっていますが、元々は地域の会館で、そこの館長さんと仲良くなって、定期的にビブリオバトルをやっていたのです。それが毎月ラジオが収録に来て、ラジオで流すみたいな面白い展開もしていたのですが、そこの館長が異動になって、ラジオの担当者も異動になって消滅、終わりです。ただ、本屋でそういうのをスピノフでやっていたのは継続して、それが本になり、本にもビブリオがちょっと出てくるのですが、映画になって、ドキュメンタリーで僕もちょっと出て、それは続いたのです。だから、続くものもあれば消えたものもあるという感覚です。あまりポジティブな答えではないですが、延命はしなくていいのではないかと考えています。

(受講者E) ありがとうございます。延命というか、予算が付いて、「できない」と言ってなくなったので。

(江上) 予算が付いて、やめたら駄目ですよ。それはそうです。

(受講者E) 私は頑張っ、楽しんでやっていたことだけれど、それをやってしまうと後の担当の方がしんどいのだなという反省もあるのですが、うまく継続できるコツがあればと思うのですが。

(江上) 仕事でない部分でやっているものは、自分のリソースで続けられるのです。でも、スケボーも性教育も、多分、僕が異動したらなくなると思います。そこまでできないのではないかな。壁ゲーはプライベートの活動なので続くと思います。仕事のことを異動先から続けるのは、仕事を持っていく以外に無理です。ただ、思い入れのある事業だと、つらいですよ。

(受講者F) 今日は本当にありがとうございます。今日は「ワクワクする」というところに惹かれて、毎日何か楽しいことがないかなと思いながら仕事をしているので、これだと思って希望したのです。私は今年で入庁30年になるのですが、仕事をしてきて思ったのは、公務員はできないことを理由にするのがすごく上手だなということ。窓口業務を20年ぐらいずっとやっていたので、何かにつけて、「できない」と言うための理由を法律で探す。そこがすごく引掛かって、「これは違うよな」とずっと思って、勇気を出して「違うのではないですか」と言ったら、変な人呼ばわりされて、「あの子の言うこと聞いたらあかんで」みたいな感じになるのです。でも、今いる部署の上司がすごく前向きな方で、やっとう当たりだなという感じの職場なのです。だから、これを機に、これから先頑張っていきたいと思っているのです。すごく色々なことをされていますが、「もうやめておいたらいいのに」とか絶対思われていると思うのです。すごく大きな職場なので、みんながみんな賛同することはないと思うし、

今までみたいな公務員としての固定観念や慣習、古き悪しきしきたりでへこむことはないのですか。そうなったときに、行く先々の夢というのが何かあれば教えてもらいたいです。

(江上) ご苦勞はよく分かります。できない理由がうますぎるのですよね。僕がよく言い返しているのは、公務員は説明責任のプロだから、どんな結論であっても、つまり、プランAに対して賛成でも反対でも、どちらを選んでも上手に説明できるのです。それだったら、市民が喜ぶ方を選んで、それに対して説明する方法を考えたらいいのではないかといつも言うのです。だって、説明のプロだから。それなのに、できない理由の方を選ぶ習慣がついているのです。これは減点主義のせいや、議会のチェックで目を付けられないことが最適解だという構造のせいなのですが、でも、そこは踏みとどまって、市民からやってほしいと思われていることをやって、その説明を考えると、いうふうに行動を改めたら何とかできるということをみんなに言っています。

壁でゲームをしようが、スケボーパークを造ろうが、理論武装はできるのです。「これは青少年が壁を乗り越えて」とか言って、それなりの文章を書いたら、強権的にやめさせることは無理です。だから、ちゃんと騒音の苦情の対策をして、安全も対策していたら、やめさせようがないので、何とか聞えます。だから、アカウントビリティのスキルを幸い15年間鍛えているので、そのスキルを「できる」という方向に使うだけなのですが、なかなか難しいと思います。

へこむことはよくあります。僕は、頼まれたこと以上のことをやろうとしてしまうので、プラスアルファで突っ込んでやっているのですが、そこを駄目出しされるとへこみます。やらなくていいことをやって怒られているわけですから。でも、それは瞬間的なものなので、気にしないで、酒飲んで寝たら元気になるので、足を踏みしめてまた一歩進んでいるという感じです。

夢としては、ちょっと大げさなのですが、公務員の価値観や考え方、イメージを変えたいと思っていて、できない理由を考えて言うというのが公務員の習性ではあるのですが、これは戦後、議会制民主主義ができて何十年も続いてきたことの弊害だと思っています。でも、それを今色々な人事制度や働き方改革の中で、アウトカムベースでの評価をしていくように変えていければ、できない理由がうまい人ではなくて、達成した人が多い人を評価していくように変えられると思っています。要は、説明がうまくて議会をもめさせない人ではなくて、本当にスケボーパークを造った人とか、本当に性教育トイレットペーパーを小学校に入れた人が評価されるタイミングが来ると思うので、それを実践できたらと思っています。僕は、余計なことをしているけれど人事評価は高いです。それは多分、アウトカムベースでの行動が、他の業務全体にプラスを与えているからなのです。だから夢としては、公務員の価値観や評価基準も変えて、公務員自身の行動の慣習やイメージを変えたいというのが最終目標です。定年までにできるかなと思っています。

(司会) お時間もございますので、皆さま、長時間にわたり、お疲れさまでございました。以上をもちまして、意見交換会を終了とさせていただきます。